

教育研究業績書

2023年11月6日

氏名 藤田 拓哉



研究分野	研究内容のキーワード	
教育上の能力に関する事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 (1) 講義におけるプレゼンテーションの工夫（学科に応じた内容変更、イラストや動画を導入、オンライン授業対応） (2) 各回のコメントシートでの感想と質問対応 (3) 体験的に学習できるように国家試験問題や心理学のワークの取り入れ	2020年4月～	<p>堅苦しすぎない、伸び伸びと過ごせる講義をモットーに講義に工夫を凝らしている。配布資料にはイラストを多用し、視覚的に理解しやすいように構成をしている。また学科に応じて講義の内容や説明を微調整し、各学生の専門に担当科目を結び付けながら説明するように心がけている。少しでも馴染みやすくなれ、楽しめるように、漫画やアニメ、時事問題（虐待報道や芸能界のメンタルヘルスなど）などの画像や映像を適宜説明の際に用い、書籍を読む、講義の説明を聞くだけに留まらない講義を展開している。</p> <p>また2020～2021年度はオンラインでも授業を行い、画像やネット記事、動画を画面共有、チャットルームやブレイクアウトルームの活用をし、オンラインの良さも生かした授業を実施した。また、回線不調などが起きた際は、授業後、授業のオンデマンド動画を作成し、対応した。</p> <p>大学での講義では、毎回、コメントシートを提出してもらい、次回講義で共有している。感想では学生の理解や興味を抱いたポイントの確認をしている。質問対応では、講義内容に限らず、日々の相談事や疑問、雑談的な質問も自由に受け付けている。質問コーナーを毎週の講義の楽しみにしているという学生のコメントもいただけた。</p> <p>理学療法学科や言語聴覚士学科では、担当科目の国家試験問題を解答、解説の時間を取り入れ、講義内容の理解の確認しながら、国家試験問題を体験できるようにしている。またストレスや心理検査などの講義回では、日常を振り返るワークや検査に模した課題の取り組みなどにより体験的に学習する時間を設けて主体的に講義に取り組めるようにしている。</p>
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許 公認心理師資格（第 40557 号） 日本臨床心理士資格（第 38979 号）	2021 年 3 月 19 日 2021 年 3 月 20 日	公認心理師法を根拠とする日本の心理職唯一の国家資格 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の資格		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者について特記事項 大阪大学大学院人間科学研究科心理教育相談室	2020 年 4 月～ 2023 年 3 月	博士後期課程進学後も、大阪大学大学院人間科学研究科附属心理教育相談室にてケース担当。主に母子並行面接の母担当をし、子担当となる下級生と共にケースを担当。相談室運営業務（マネジメント等）にも携わる。		
4 その他 2019 年度大阪大学人間科学研究科公開講座「障がい児・者のこころと体をはぐくむ臨床動作法」運営補助（学生マネージャー）	2019 年 5 月～ 2020 年 3 月	大阪大学の地域貢献の一環として、大学の有する専門知識や技術の社会への還元を目的とし、障がいをもつ子どもたちと一緒に、臨床動作法を学ぶ公開講座において参加者へ動作法を実施する学生トレーナーならびに運営に携わる学生マネージャーを担当		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 〈実践から内省への自己プログラム〉ワークブック 体験的 CBT	共著	2021 年 4 月	岩崎学術出版社	モジュール 4「助けにならない考え方と行動を同定する」(87～103 頁) の翻訳を担当。監修者 伊藤絵美、丹野義彦、監訳者 佐々木淳、訳者 安達友紀、村中誠司、竹田剛、鈴木孝、藪田拓哉 他 11 名。本書は Bennet-Levy, J., Thwaites, R., Haarhoff, B., & Helen Perry (2015). Experiencing CBT from the Inside Out: A Self-Practice/Self-Reflection Workbook for Therapists. The Guilford Press. の日本語版である。認知行動療法の技法を参加者が自らに実施し、内省を通じて体験的に認知行動療法を学ぶワークブック。海外で盛んになっている体験的認知行動療法が日本で普及する礎となった。
(学術論文) 1 アニメ視聴による心理的体験に関する臨床心理学的研究 (修士論文)	単著	2020 年 3 月	大阪大学	アニメは幅広い世代に視聴されているが、心理学研究においては作品の考察など論考が中心で、アニメ視聴がもたらす効果などについて実証的に解明されていなかった。本稿では、アニメの心理学研究の概観と心の支援ツール

2 アニメ視聴による心理学的体験の構造化	共著	2021年3月	アニメーション研究 21巻 2号、25-35頁	としてのアニメの活用可能性を論じ、人々がアニメを視聴して、どのような体験をし、影響を受けたかを言語報告を基に整理、把握した。またそれらの体験がどのような要因によって生起されないかを検討した。本研究によりアニメ研究と心理学研究を結ぶ基礎資料を、データを基に提示することができた。 著者：藪田拓哉、佐々木淳。藪田が全て執筆し、佐々木は最終確認を行った。 アニメ視聴によるポジティブな体験の報告は多々見られる一方で、それらの体験についてはアニメ研究、心理学研究では扱われてこなかった。そのため、アニメ視聴時に生じる視聴者の心理学的体験（感情や認知的反応）とその影響について整理した。いろいろな人が体験しているながらも、ただの感想のようなものに留まっていたアニメ視聴時の「体験」と「影響」を、心理学的な手法で明らかにでき、今後の研究の土台となった。 (査読あり)
3 アニメ視聴による心理学的体験の生起に関する要因の探索的検討	共著	2022年3月	アニメーション研究 22巻第1号、31-41頁	著者：藪田拓哉、佐々木淳。藪田が全て執筆し、佐々木は最終確認を行った。 視聴者の研究が乏しい背景もあり、感動などアニメ視聴によりもたらされる体験がいかに生起されるのかに関する知見が乏しい現状があった。本稿では、アニメ視聴時の体験の生起に関する作品、視聴者要因ならびに体験生起を阻害する要因を把握した。データを基にアニメ視聴に関する基礎資料を提示できた。そして、アニメ視聴過程において各要因がどのように働きあい、体験生起に関わるかについての示唆が得られた。 (査読あり)
(その他)				
1. アニメ視聴による心理学的体験の構造化に関する研究	共著	2019年9月	日本心理学会第83回大会（於 立命館大学）	発表者：藪田拓哉、佐々木淳 先述の学術論文2番の内容を日本心理学会にて発表した。人々がアニメを視聴して、どのような体験をしているかについて、調査協力者の言語報告を基に分析し、整理した。心理学者から院生、アニメに関心ある方に多くの質問や感想、雑談を寄せいただき、アニメ視聴による体験や影響の個人の経験や研究案についての共有や議論ができた。またアニメの心理学研究に携わる研究者の方から、研究会での発表の招待を受けた（下記 学会発表4番）。
2. 知的障害を伴う自閉スペクトラム障害の女性との臨床動作法—セッション参加への枠づくりと文脈づくり—	共著	2019年11月	日本リハビリティション心理学会 学術大会（於 長崎）	発表者：植田杏奈、藪田拓哉 大阪大学大学院臨床心理学分野臨床動作法公開講座（2019年度）における事例を学会にて口頭発表を行った。4泊5日の短期集中の臨床動作法セッションにて2名で事例を担当した。藪田は前半の3日間の事例担当と事例の引継ぎ、発表論文の確認、修正を担当。植田は後半2日間の事例担当、発表論文の執筆と口頭発表を担当。臨床動作法の実施に当たり、参加者がセッションに参加しやすい文脈づくり（環境調整や声掛け、遊びや対話からの移行など）の効果を検討した。
3. アニメ視聴による心理学的体験の生起に影響する要因	共著	2020年9月	日本心理学会第84回大会（於 東洋大学：オンライン開催）	発表者：藪田拓哉、佐々木淳 先述の学術論文3番の内容を日本心理学会にて発表した。アニメ視聴により生起される体験が、作品と視聴者のどのような要因により

	4. アニメ視聴による心理的体験の構造化および作品/視聴者要因に関する臨床心理学的研究－アニメーション療法の開発に向けて－	単著	2021年3月	日本映像学会映像心理学研究会・アニメーション研究会、日本アニメーション学会心理研究部会合同研究発表会発表（オンライン開催）	引き起こされるか、阻害されるかについて、調査協力者の言語報告を基に分析し、整理した。オンラインポスターを作成し、学会所定のディスカッションフォームを用いて、寄せられた感想への返答、質疑応答やディスカッションを行った。 上述の学会発表1番の際に、日本アニメーション学会、日本映像学会の理事も務めるアニメの心理学研究者の方より、研究発表会での発表の招待を受ける。発表時間60分の中で、アニメーション研究やアニメ制作に携わる参加者やアニメの心理学研究を行っている参加者の前に、修士論文の内容を発表し、議論をした。新型コロナウイルスの影響で、2020年の対面実施は叶わなかったが、延期の末、翌年、オンラインにて実施された。
	5 高校野球選手を対象とした研究における心理面に関する文献検討	単著	2022年12月	第9回日本野球科学研究会（於 近畿大学）	高校野球と心理学をテーマに扱っている本邦の論文のレビューをまとめ、ポスター発表を行った。

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」の欄の「印」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。